

図書センター第2期にあたって

松下健保図書センター

北村 きみえ

図書センターとして独立し、専任がおかれ、今年で3年になります。また、私が担当となって2年になります。そこで、3年を一区切りとして第一期と決め、今年54年から56年までを第二期ということで、3年計画でやっています。

この第一期の3年間を振り返ると、第一期は基礎作りでした。その中でも第1年目は本当の意味での基礎作りの時期で、各科にあった本をひとつにまとめ、それを登録し、配架する。その他いろいろ図書室として必要なものを揃えたりしました。近くの大学図書館からアドバイスを受けたり、また病院図書室等の見学をしたりして図書室としての業務が始まりました。

図書センターとして独立したといっても、新しく建設されたのではなく、倉庫兼事務所であった部屋を図書センターとして使用していました。それも名ばかりで、閲覧机に2人が座ればもう一杯で動きがとれないといった有様でした。この状態で約2年間、利用されていました。

昨年（昭和53年）の4月に図書センターが拡張され、今までの所を書庫として利用し、新しく拡張された部屋を閲覧室として独立さ

せました。

設備として、ゼロックス・スライドを作製するバナコピー・キャレルデスク3台・ラウンジ用ソファ-2・丸テーブル1台・閲覧兼作業机1台を揃えました。閲覧室には大きな窓があり、見晴らしもよく最適です。設備面では、第一期のうちに盤石になってきましたが、大きな問題が残っています。それは、図書室として建てられたものではないので補強という点です。年間、製本雑誌を加えて何百冊と増加するので、現在の書庫に入り切らなくなり、重量に床がもちこたえられるかが心配です。

一方、運営・内容の面からみますと、一応図書委員会があり、松下病院医師1名、健康管理センター医師1名、病院長、司書1名の4名で構成していますが、まだ図書委員会を開いたことがありません。本の購入に際しては上記の医師に見てもらうだけですが、意見が片寄ってしまいがちです。今後、図書委員会をどう運営し、担当医師との連絡を密にしていくかが課題の一つです。

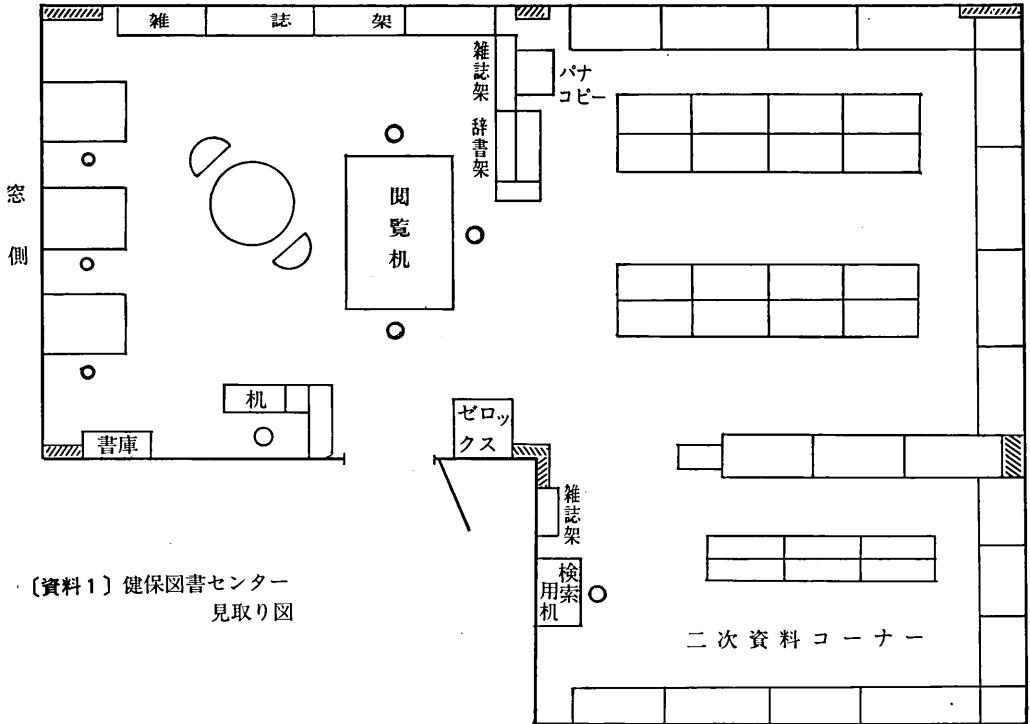
現在、司書の主な業務は予算作成、資料の登録・貸出し、「図書センター通信」の発行・レファレンスワーク等ですが、すべてをや

り切れてはいません。

図書センター第二期を目前にして、もう一度、図書室の原点に帰らなければならないと思います。「図書室というものは、病院の顔である」と、図書センターを大事にされる院長はいわれます。第一期の基礎作りが終った

あとは、担当者が前述の院長の言葉をどのように受けとめ、実行にうつしていくかであると思います。

第二期にむけて、図書センターの更なる充実に、頑張っていきたいと思っています。



〔資料1〕 健保図書センター
見取り図

〔資料2〕

☆図書センター利用状況 (S. 53. 1~12月)

松下健保図書センター

項目	月												合計	月平均	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
利用者	医師	68	87	95	78	82	109	130	77	84	107	113	80	1,110	92.5人
	パラメディカル	87	99	129	111	90	147	160	75	134	116	91	96	1,335	111.25人
	その他														
計	155	186	224	189	172	256	290	152	218	223	204	176	2,445	203.75人	
貸出	単行本	14	20	23	12	18	26	24	13	13	12	19	14	208	17.33冊
	雑誌	21	15	18	23	18	27	21	11	21	26	11	10	222	18.5冊
返却	単行本	7	14	16	4	13	15	26	8	11	11	14	15	154	12.83冊
	雑誌	12	24	25	18	15	27	18	12	11	20	20	8	210	17.5冊
相互貸借文献の申込み	32	27	67	41	70	36	114	31	15	65	38	67	562	46.83件	